

神戸市長
久元喜造 様

2025年3月25日
新日本婦人の会会長 米山淳子

米軍艦の神戸港入港を許可したことにつよく抗議し、
神戸市議会決議と非核「神戸方式」を厳守するよう求めます。

昨日3月24日、アメリカ海軍の掃海艇ウォーリアが非核証明書を提出しないまま神戸港に入港しました。入港を認めたことに、つよく抗議します。

神戸市は、神戸市議会が1975年3月18日に全会一致で採択した「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否の決議」にもとづき、入港するすべての外国艦船に対し、例外なしに非核証明書の提出を義務づけています。国是である非核三原則を厳格に実施するものであり、日本国憲法が保障する地方自治の原則にもとづいて50年間続けられました。この非核「神戸方式」のもと、核兵器搭載の有無を明らかにしない方針をとるアメリカは50年間1度も入港申請をすることができませんでした。

3月17日にアメリカが初めて掃海艇ウォーリアの入港を申請し、平和・市民団体などが厳正な審査と神戸港の軍事利用となる米軍艦の寄港を拒否するようにと求めたにもかかわらず、神戸市は外務省からの「核兵器を搭載していないことにつき、わが国政府として疑いを有していない」との回答にもとづき入港を許可してしまいました。さらに、24日の神戸市議会経済港湾委員会での質疑で、市港湾局が入港予定を把握したのは2月18日だったこと、その後市は外務省からの回答を得た後、在大阪・神戸米国総領事と会談し「核非搭載と認識」し、非核証明書の提出を求めていなかったことが明らかになりました。国やアメリカの言い分をうのみにして神戸市議会決議を踏みにじり、50年間地方自治体として続けてきた非核証明書の提出義務付けという行政措置を反故にしたばかりか、入港予定を把握して以降1カ月もの間、この経過を市議会にも市民にも知らせてこなかったことは、極めて重大です。

国内外の貿易や商業活動において重要な役割を担っている神戸港が、軍事利用されることなく非核平和の港として発展していくことは、地元はもとより日本とアジア、世界の平和への貢献となります。戦後・被爆80年、世界に誇るべき宝ともいえる非核「神戸方式」50年の大きな節目に、この宝を自ら壊す行為に対し、重ねて抗議するとともに、神戸市議会決議と非核「神戸方式」を厳守するよう、つよく求めます。